



中賢愚
卷
錢湯
新話

京傳
作

草木ろろあしと
 人も湯山もむあり
 人の心あかしくし
 ありてゆの心あか
 しくらうちをそれ
 へゆられせさつかに
 人むそくまゆの中
 丹てあかあしをすり
 とたへおたえんぐいぐとちあぢが
 してあさのやうあつもの
 うくも物これあかち
 人の心あかしくらうち
 あのかよふさうらうち
 ぢつこたなり



又

六

芝居の中も忠臣蔵はきこりのあま
く申へんたがごやまごのりゆ
やあまごのりゆごやまご
月があらつてふらりいさ
さけびびごにさけび
風をのれひささ
ほり水小をさめぬ
よりんごなり
大さげとこのむ
りのもはご
アゴそまの目
さけびびごにさけび
ありてやまご目
いふらあひとささご
小さげのやうにあら
なまごごやくろ口
のやうにあらあり
くべのあらるるねが
あまごご平正のね
のちうらがくさんて

今日休



はつんふん女
まけあのこ
あつあつ
ひらひら
さうさ
あつあつ

いのちをけしのこと
めくせんあつあつ
て大さげとこのむ
べうべう

忠臣水滸傳 京傳作

りやうわうあつあつ
まのあつあつ
さうさうのやまご
ねがあつあつ
あつあつ
さうさうの
あつあつ
あつあつ
あつあつ

△系傳さごご
○あつあつ
○あつあつ
○宮田貴飛
はつあつあつ
引れあつあつ



あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ
あつあつ

ゆきまを仁義常あり
 市をりつて人をあそび
 くらびよきそやまあるに
 仁ありおけのおあたはご
 ざりませんらと人のおけ
 小てをさけぬい義あり
 いあつりめてごせいひん
 そのでございごらんま
 さびい礼ありぬあわ
 いこうりへちまのかり
 で何ととおと止ら
 るりごちのいごと
 けらせうちひそ水
 どうあるこれ信あり
 雨陽
 天のまち小
 よるあつらさ
 ひやくとりてまろ
 さ小おけおろ
 りるごち



あまんだん
 てねらんと
 とららま
 とのあが
 とあなる
 まんあ
 わが
 あぬ
 幼ちあ
 りうあ
 かりうあ
 へらあ
 ざあ
 いあやの

つんめて地のこち
 よろちよはやく水
 よりやくなますと
 んこちあつらさ
 ありまはあ
 をこれあつらさ
 ゆの中あつらさ
 さいうぐやあ
 ればあつらさ
 のあつらさ
 あつらさ
 ぐちの
 ぐちの
 ぐちの
 ぐちの
 ぐちの



あま
 ちあ
 りうあ
 かりうあ
 へらあ
 ざあ
 いあやの
 つん
 むつ
 づん
 やけ
 なる
 なる
 なる
 なる
 なる



とこもべゆか...
でんろちれ...
あうけ...
のれきん...
のころも...
そのごら...
しやうけ...
のべんあ...
いろぞら...
ことのゆ...
らでい...
のねが...
ろであ...
ひあけ...
とるこ...
ころが...
むきぐ...
の實心...
なり

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...



おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

おきん...
おきん...
おきん...

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく
かかして
くろく
かかして
くろく
かかして
くろく



あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく



あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

あつちを
かかして
くろく
かかして
くろく

かどへいぬいゆいふ
あがりてちをぬかす
ことみどあれがよま

ついでにちあふふ
おろびていんを
とまごつてけり

こもけちをさく
あつて湯ひ

ころまごつて
いぬあつて

「これがよめりて
八百屋のちのいん

やまておんまうる
やまをさくやうの

こもけちやぶあも
あれがよめりてゆい

あつて八百屋のいん
こもけちこれり

こもけちこれり
こもけちこれり



かどへいぬいゆいふ
あがりてちをぬかす
ことみどあれがよま

準
貴

225
61
3